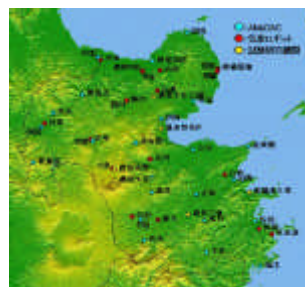


使って欲しい 新技術

農業気象情報ネットワークシステムの 新たな機能の活用方法

農業気象情報ネットワークシステムでは、気象庁が設置したアメダスや県が設置した気象ロボット及び県内の試験研究機関の気象データ（第1図）を収集し、県内関係機関等に提供して産地に適した栽培管理の指導に利用されている。



第1図 気象観測地点

近年のコンピュータの進歩やインターネットの普及による高度情報化に対応するため、システム開発と情報の提供方法について検討を行い、全ての情報をインターネットで提供するシステムに変更し、新しい機能を追加したので紹介する。

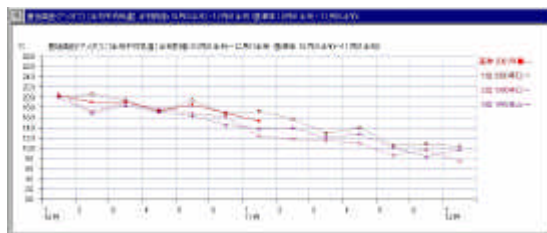
【新たな機能】

（1）最低気温予測（関係機関専用）

各作物で霜害などが懸念される場合に利用できる。観測装置別（アメダス、ロボット、試験研究機関から選択）や地域別（各地方振興局単位及び県全域から選択）に、1週間分の最低気温を予測し表示することができる。予測結果は、データ表示（一覧表形式）や地図表示の他にファイルに出力することができ、利活用しやすいようにしている。また、地域別を選択した場合は、メッシュ地図表示ができる。



第2図 最低気温予測



第3図 類似年検索の結果

（2）類似年検索

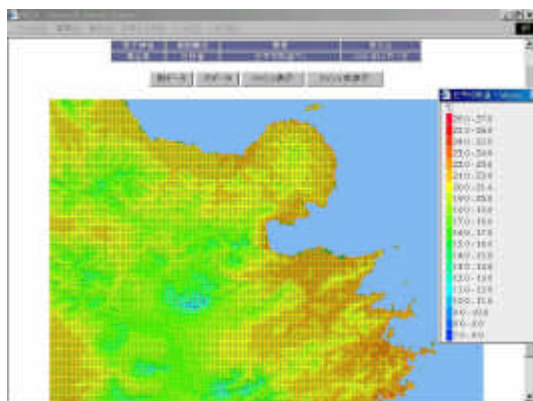
冷夏長雨、干ばつなどが懸念される場合に利用できる。過去の気象データから類似年を検索し、パターンの似ている3カ年をグラフ化して表示することができる（第3図）。日値は150日以内、それ以外は1年以内を指定して表示させることができる。また、そのグラフは画像として保存できる。

（3）メッシュ地図（関係機関専用）

気温（平均、最大、最低）、日降水量、日1時間最大降水量、日照時間で、それぞれについて日別、半旬別、旬別、月別、年別で県内の1kmメッシュ地図を表示することができる（第4図）。

また、アメダス地点と同じようにメッシュ全地点（約5,500地点）について地点毎に日報・月報、有効積算、最低気温予測、類似年検索などの各機能が利用できる（期間は1976年から現在まで）。

（企画情報部）



第4図 メッシュ地図